

平成26年度東北地域災害科学研究集会に参加しました(2015/1/9-10)

テーマ：自然災害

場所：山形大学農学部（山形県鶴岡市）

1月9日(金)～10日(土)の2日間、山形大学農学部において自然災害研究協議会東北地部会・日本自然災害学会東北支部が主催する東北地域災害科学研究集会が開催され、80名以上が参加、58題の研究発表が行われました。本研究集会は、自然災害に関する情報の共有化と情報発信、または研究成果を発表する学会です。当研究所からは、災害リスク研究部門の越村俊一教授、大野晋准教授、有働恵子准教授、今井健太郎助教、呉修一助教、王欣助教、保田真理助手、災害理学研究部門の日野亮太教授、山本希准教授、飯沼卓史助教、情報管理・社会連携部門の佐藤健教授、桜井愛子准教授が出席、研究発表等を行いました。1日目には、公開シンポジウム『鶴岡における学校防災-新潟地震と東日本大震災をふまえて-』も開催され、澤 祥 教授（鶴岡工業高等専門学校）による講演「庄内の地震環境と津波-知り備える-」の他、鶴岡市立湯野浜小学校・鶴岡市立京田小学校・山形県立鶴岡養護学校（および鶴岡高等養護学校）・鶴岡市教育委員会の実践発表が行われました。また、2日目には、「平成26年度自然災害研究協議会東北地区部会総会および日本自然災害学会東北支部総会」も行われました。当研究所の日野亮太教授は、平成26年度・27年度東北地区部会幹事長を務めています。本研究集会での研究所構成員による発表題目等は、次の通りです：（著者名は発表者と研究所構成員のみ記載、下線は研究所構成員）

- 木村宇心・佐藤健：仙台市における現行の防災計画から観た避難者数推定と避難所の評価
- 谷端勇紀・佐藤健：東日本大震災時の仙台市における避難者の発生要因に関する研究
- 夫馬千尋・佐藤健：仙台市の自主防災組織の地震災害対応力推移
- 保田真理・今村文彦・サッパシー・アナワット・野内類・イケリーン：2004年スマトラ地震津波被災地域および2013年台風ハイエン被災地域への出前授業実施速報
- 飯沼卓史・日野亮太・木戸元之・三浦哲：2011年東北地方太平洋沖地震の余効変動
- 日野亮太・木戸元之・飯沼卓史：地殻変動観測を応用した津波即時予測の試み
- 加藤圭吾・呉修一・有働恵子・真野明：台風1330号(Haiyan)によるフィリピン・レイテ島の
人・建物被害の定量的評価
- 東條薫・有働恵子・真野明：2011年東北地方太平洋沖地震津波による砂浜の広域被害特性の解析
- 紀国亮・有働恵子・真野明：日本全国の海岸における過去の汀線変化特性の解析
- 今井健太郎・飯沼卓史・蝦名裕一・菅原大助・今村文彦：組み合わせ最適化手法を利用した歴史津波の波源推定法—1611年慶長奥州地震の事例—
- 小浜卓・佐藤健：津波に対する学校の施設整備とその計画手法に関する研究
- 大野晋：常時微動推定による東北大学青葉山免震建物群の振動特性
- 王欣：中国 M6.5 雲南省昭通地震現地調査報告
- 郷右近英臣・越村俊一：Terra-SAR-Xによる津波被災地の建物被害半自動推計手法の検討
- 武田百合子・有働恵子：ALOS/PRISM画像を用いたDSM作成とその特性に関する研究
- 堀内慈人・今井健太郎・今村文彦：津波痕跡高分布を用いた波源推定
- 林里美・越村俊一：津波ビデオ解析による2011年東北津波の氾濫流域の把握
- 山本希・三浦哲・市來雅啓：東北地方太平洋沖地震以後の蔵王山の火山活動



研究発表の様子（第一会場）



研究発表の様子（第二会場）

文責：鈴木通江（広報室）